

(入学者受入方針)

1. 科学と工学の基礎学力を十分に身につけている人
2. より高い専門的な技術を磨く意欲のある人
3. 技術者として地域社会および国際社会の発展に貢献できる素養のある人
4. 社会性と倫理観をもち、自主的に行動できる人
5. 心身ともに健全な人

専攻科入学者選抜の方法として、推薦による選抜、学力選抜、社会人特別選抜の3通りを実施している。さらに、学力選抜については、5月に実施する前期学力選抜と、9月に実施する後期学力選抜がある。入学定員は、機械電気工学専攻が8名、物質工学専攻が4名、建築工学専攻が4名の合計16名であり、推薦選抜は定員の50%、学力選抜及び社会人特別選抜も定員の50%とし、後期学力選抜でも、1名以上の合格者を受け入れることが可能な制度としている。すなわち、前期学力選抜及び社会人特別選抜では、最低1名の合格者を受け入れ、後期学力選抜でも最低1名の合格者を受け入れることとなる。なお、実際の受入人数は、各専攻とも200%以内としている。

① 推薦選抜

推薦選抜試験においては、「面接、調査書及び推薦書の結果を総合して選抜」してきた。面接試験において、入学者受入方針に対応した質問事項を設け、これを点数化して評価している。また、入学者受入方針に関する内容を推薦書や調査書から読み取り、合否判定の参考としている。

入学者受入方針の「1」に関しては、面接試験の中で、口頭試問という形式で確認してきた。しかし、平成23年度入学者の推薦選抜試験終了後、口頭試問に関する見直しを議論した中で、「科学と工学の基礎学力を十分身につけている」か否かを判断するには、口頭試問より、本科での成績を重視した方が望ましいという結論に達した。したがって、平成24年度入学者の推薦選抜試験においては、調査書に示された高専本科の成績を点数化して、選抜することとした。

また、英語力は、入学者受入方針「1」の「工学の基礎学力」として、「2」の「専門的な技術を磨く」ために、あるいは「3」の「国際社会の発展に貢献できる素養」として、極めて重要な科目である。そこで、平成24年度以降は、英語力をより客観的に判断するために、TOEICテストのスコアを推薦条件に加えることにした。審議の結果、推薦条件としてTOEICテストのスコアを300点以上獲得していることとした。

したがって、平成24年度入学者の推薦選抜試験においては、「TOEICの成績が300点以上」を推薦条件に加え、「面接、調査書及び推薦書の結果を総合して選抜」することとなった。

② 学力選抜

学力選抜試験においては、「学力試験の成績、面接及び調査書の結果を総合して選抜」している。学力試験は、英語、数学、専門の3科目である。平成23年度入学者の学力選抜試験から、TOEICテストの結果を英語の成績としている。TOEICテストの350点(990点満点)を英語の60点(100点満点)となるよう換算している。学力に関しては、学力試験以外に調査書に示された高専本科の成績も考慮している。その他、入学者受入方針に関することは、面接試験や調査書(高専本科の成績を除く)の記載内容で確認している。

③ 社会人特別選抜

社会人特別選抜試験の方法は、基本的に推薦選抜試験と同じである。ただし、推薦選抜試験においては高専等の学校長による推薦書が必要となるが、社会人特別選抜試験においては、企業の所属長等の推薦書が必要である。また、社会人特別選抜試験には、TOEICのスコアの提出を求めていない。

④ 「生産デザイン工学」プログラムへの編入

本校専攻科への入学は、同時に「生産デザイン工学」プログラムの3年次への編入を意味している。したがって、高専本科において開講される「生産デザイン工学」プログラムに関連する単位を修得しておかなければならない。

本校本科から本校専攻科に入学する場合、本科で開講される「生産デザイン工学」プログラムに関連する単位の修得に不足がある場合、対象科目を履修した事実がある場合は、試験を行い、「生産デザイン工学」プログラムの単位としてのみ、単位認定を行う。また、履修した事実が認められない場合は、本科で開講されている対象科目を履修させることにしている。

本校以外の教育機関から本校の専攻科に入学を希望する場合は、本科4、5学年又はこれに相当する教育課程での修得科目と単位数から、「生産デザイン工学」プログラムの修了要件を満たすことが可能かどうか、事前に確認する必要がある。そのため、入学志願書受付開始日の二週間前まで本校学生課教務係に申し出てもらい、出身校での修得した単位の中で、「生産デザイン工学」プログラムの1、2学年の科目として認定できる科目を確認し、「生産デザイン工学」プログラム修了が可能と考えられるかどうかを本校が判断している。

(3) 学生定員の充足状況

入学定員は、機械電気工学専攻が8名、物質工学専攻が4名、建築工学専攻が4名の合計16名であるが、本校専攻科では、その倍の人数まで受け入れることが可能としている。

表II-2(3)-1に、過去5年間の専攻科在籍者数と充足率を掲載している。平成18年度において、充足率が100%を若干下回ったものの、それ以外は定員の100%を超える学生が入学している。ただ、専攻別に見ると、建築工学専攻の入学者数が安定しておらず、100%を下回る場合が多い。また、表には示されていないが、平成23年度の専攻科入学予定者においては、機械工学科から機械電気工学専攻へ進学する学生が2名と、少なくなっている。

表II-2(3)-1 過去5年間の専攻科在籍者数と充足率

年度	専攻名	1年		2年		合計	
		学生数	充足率	学生数	充足率	学生数	充足率
17年度	機械電気工学専攻	10	125%	8	100%	18	113%
	物質工学専攻	4	100%	4	100%	8	100%
	建築工学専攻	3	75%	6	150%	9	113%
	合計	17	106%	18	113%	35	109%
18年度	機械電気工学専攻	9	113%	10	125%	19	119%
	物質工学専攻	3	75%	4	100%	7	88%
	建築工学専攻	2	50%	2	50%	4	50%
	合計	14	88%	16	100%	30	94%
19年度	機械電気工学専攻	11	138%	9	113%	20	125%
	物質工学専攻	7	175%	3	75%	10	125%
	建築工学専攻	7	175%	2	50%	9	113%
	合計	25	156%	14	88%	39	122%
20年度	機械電気工学専攻	12	150%	9	113%	21	131%
	物質工学専攻	9	225%	6	150%	15	188%
	建築工学専攻	5	125%	4	100%	9	113%
	合計	26	163%	19	119%	45	141%
21年度	機械電気工学専攻	13	163%	12	150%	25	156%
	物質工学専攻	8	200%	7	175%	15	188%
	建築工学専攻	3	75%	5	125%	8	100%
	合計	24	150%	24	150%	48	150%

2 学生生活への支援

最近は物事の本質に触れることなく表面だけで処理してしまう傾向が社会全体にある。生活が豊かになり、また核家族化や少子化等の影響により人とのつきあい方を身につける機会が年々失われつつあり、人間関係が希薄となる中で多様な考え方のできない独善的な若者が増加している。このような状況下で社会や家庭における規範の低下が学校においても徐々に表れてきている。

日頃より学生には、高専生として品位・品格をもって行動するように指導している。学生便覧に記載されていることは学生として遵守しなければならない最低限のルールである。

高専生のこの時期は、子供から大人になる最後の教育の場であり、人間形成のために学校行事や部活動を通して授業以外の教育の場を如何に魅力的なものとしてできるかが、今後の学校としての重要な使命の一つとなつてきている。

学生指導部では、下記の点について学生・生活支援を強化している。

- 1) 優れた人格を有する学生を育成するための道徳・倫理意識の向上（学生指導部担当分の特別活動：LHRによる内容の精選や SHR による生活指導の徹底）
- 2) 就職及び学生生活全般の支援強化（地元企業や同窓会との連携強化・キャリア支援教育の確立、地域総合スポーツ型の導入によるクラブ活動の活性化・思春期の学生のケアとカウンセリング学内体制の一層の充実）
- 3) 交通マナーの向上と安全対策指導の徹底（バイク許可制、四輪は本科禁止）
- 4) 高専を核とした教育・文化体制の構築と地域連携の強化（小学校・中学校との文化交流を軸に小中高専の一貫教育の模索など）
- 5) 校内美化と環境教育の推進（省エネの励行）
- 6) 保護者との連携強化（学校後援会との連携をより一層強化）

(1) 生活指導

本校では、低学年生（1～3年生）と高学年生（4, 5年生、専攻科）に分けて指導している。低学年生は高校生（南生連）に準じた扱いで、高学年生は大学生と同様に自主性を重んじた指導をしている。特に低学年生の指導は、都城圏域の高校生の生活指導に準じた指導をとっている。南生連（南部地区生徒連絡協議会）は、都城圏域の高校など約 20 校が加盟し情報交換や市内補導などを通じて青少年の健全育成を目的とした組織である。本校も南生連に準加盟し、毎月の市内高校との合同補導と 2 ヶ月に 1 回協議会に参加し連携を深めている。

① 学校の現状を考える

学校での学生処分は、喫煙、交通違反、服装指導などが主な処分内容となつてきている。中でも校内の喫煙は、以前と比較して減少傾向にある。交通違反については軽微なもの（自転車の二人乗り、無灯火、傘さし等）については、校門で登校指導の際に指導している。自転車については警察署もイエローカードを各個人に配付し指導を強化している。しかし、最近は、自転車、バイクの運転時にヘッドホンや携帯電話を使用している安全義務違反の学生が増加する傾向にある。

平成 21 年度に道路交通法が改正され罰則が厳しくなったが、実際には効力を発揮するまでには至っていない。学校では安全運転義務違反として、平成 22 年度よりヘッドホンや携帯電話の使用については 1 ヶ月の預かりとしている。また、自転車の窃盗が校内でも発生しているが、ほとんどは無施錠の自転車であり、物に対する愛着心が低下している。現在はダブルロック（二重施錠）するように指導している。

無許可の自転車やバイクの点検は、学生会交通安全局が毎週水曜日に実施している。違反車両が毎週発見され、学生のモラルの低下には著しいものがある。

服装の乱れは、保護者や地域住民からの指摘もあり、平成 21 年度より厳しく指導している。特に女子学生は、スカートの丈を勝手にカットして短くしているケースが多く、保護者召喚している。

携帯電話の学校への持込みは、遠距離通学者や登下校時の安全対策の一つとして許可している。しかし、

授業以外の休み時間等でボリュームをあげて音楽を聴いたりすることが多く見受けられるようになった。そのため、平成 21 年度より 8 時 35 分から 4 時 20 分までは携帯電話の使用を禁止している。万一使用が発覚した場合は、1 ヶ月学生係で預かりとしている。

② 服装について

低学年生には、登校の際には制服を正しく着用するように指導している。高学年の 4, 5 年生、専攻科生も決して華美にならないように指導している。制服に関する注意事項を以下に記す。

- 1) 男女とも制服からシャツ等を出さない。
- 2) 女子は学校指定のベスト以外の着用は禁止。(発覚の場合、学生係にて保管。)
- 3) 女子のスカートの丈は膝中央、エンジのネクタイを着用する。
- 4) シャツ出しや服装等(ピアス・茶髪・化粧等)で改善の見られない学生は保護者召喚。

(2) 課外活動(クラブ・同好会)

高専における課外活動は、高校や大学のように体系化されたものではなく、1 年生から 5 年生までの幅広い年齢構成であるため特殊な状況下にある。知徳体は日本の学校教育における柱であり、部活動もその一翼を担っている。高専においても部活動・同好会の目的は、知徳体がベースにあり、課外活動を通しての人間形成が主たるものである。

高専の課外活動のスタイルは、5 年生主体の部員指導型から専門教員指導型あるいは外部コーチ型へと変遷し、その指導体制も年々多様化している。

10 数年前に高校総体への参加が認められるようになり、高専におけるクラブ活動の在り方も急激な変化を感じてきている。1 年生から 5 年生までの一貫教育体制から 1 年から 3 年生(低学年: 総体型)と 4, 5 年生(高学年: 参加型)の二極化の現象が感じてきている。これらの変化に対して学校のクラブ活動の支援体制は旧来のままであり、クラブ活動の現場の状況は、学生の部活動離れ、顧問教員の負担増、外部コーチの待遇等多くの問題を抱えている。クラブ活動の弊害は、中学校において特に顕著であり、教員が平日や土、日曜のクラブ指導に熱中するあまり、授業の準備不足や疲弊による負の要素が拡大している。本来の教員の役割が曖昧となり学校教育の歪みが生じてきている。

都城高専においても教員の校務は年々増加傾向にある。このような中で高専教育における部活動の在り方を検証することは重要なことである。本校における今後のクラブ活動の在り方について議論し、本校の新たなクラブ活動の指針を作成することが急務となっている。

ここ数年の学生のクラブ活動の実績は、男子バレーボール部の全国優勝、吹奏楽部の宮崎県吹奏楽コンクール金賞、ロボット製作局の全国ロボコン大会での奨励賞、平成 22 年度全国高専テニス大会での 1 年生黒木沙織さんの全国優勝、柔道部男子団体の 23 年振りの九州大会優勝が特筆される(表 II 2(2)-1、表 II 2(2)-2)。

競技については、上記の競技以外は部員の減少、指導者不足、部活動離れにより低迷しているクラブもある(表 II 2(2)-3)。現状を打破するためには、クラブ活動が勝利至上主義ではなく、人間形成の場として捉え、学校が外部コーチの待遇や地域との連携、そして教員の多忙化等の問題をひとつずつクリアしていく必要がある。

同好会活動は、新たにダンス同好会やジャグリング同好会(平成 22 年度 部に昇格)が結成され多くの学生が積極的に参加していることが特筆される。これらの同好会はリーダーが自主的に同好会を運営しており、また地域との連携やコンテスト等に参加し好評を博している。

表II2(2)-1 全国高専大会出場クラブ

クラブ名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
柔道競技						出場
卓球競技						出場
ハンドボール	出場					
バレーボール	3	優勝	3		出場	
水泳 (400mメドレーリレー)	出場					

表II2(2)-2 全国高専大会出場個人種目

氏名	競技種目	17年度		18年度		19年度		20年度		21年度		22年度	
		地区	全国	地区	全国	地区	全国	地区	全国	地区	全国	地区	全国
川野 将太	水泳 200m 平泳ぎ	3(1)	出場	2(2)	2(2)	2(3)	2(3)						
	水泳 100m 平泳ぎ	1(1)	出場										
竹下 幸輝	水泳 200m 背泳ぎ	2(1)	出場	3(2)	出場								
	水泳 100m 背泳ぎ	2(1)	出場	2(2)	出場	3(3)	辞退						
皆川 信大	水泳 200m 平泳ぎ			3(2)	5(2)	3(3)	辞退						
田中 優帆	水泳 50m 女子バタフライ							1(1)	出場	1(2)	出場	2(3)	出場
	水泳 400m 女子混合リレー								2(1)				
東 欣史郎	水泳 男子200m 個人メドレー									2(1)	出場	3(2)	出場
	水泳 男子400m 自由形									1(1)	出場	3(2)	
宮本 明幸	陸上 走高跳	1(4)	出場	2(5)	出場								
中屋敷 創也	陸上 男子 5000m										3(5)		
椿坂 公太	陸上 走幅跳			1(4)	出場	3(5)	出場						
隈元 大輔	陸上 走高跳				1(4)	出場	1(5)	4(5)					
染矢 貴洋	陸上 三段跳			2(3)	出場	1(4)	2(4)						
富山 浩太郎	陸上 男子 砲丸投げ							4(1)		1(2)	2(2)	1(2)	2(2)
川崎 寛	陸上 男子 円盤投げ							1(3)	出場	1(4)	出場		
黒木 沙織	テニス 女子シングル											1(1)	1(1)
浜砂 亜衣子	バドミントン 女子ダブルス	3(2)		2(3)	出場								
内木場 ひかる	バドミントン 女子ダブルス	3(1)		2(2)	出場								
圖師 けい	卓球 女子シングルス	1(1)	出場										
	卓球 女子ダブルス	2(1)	出場	2(2)	3(2)	3(3)							
小倉 優加	卓球 女子ダブルス	2(1)	出場	2(2)	3(2)	3(3)							
馬渕 浩之	弓道 男子個人戦 (西日本大会)							2(1)	出場				
染川 紗貴子	弓道 女子個人戦 (西日本大会)							2(2)	出場				
塩本 みなみ	弓道 女子個人戦 (西日本大会)										2(1)		
山下 浩幸	柔道					2(5)	出場						
黒木 智紘	柔道 男子個人戦 60kg以下							2(1)	出場	2(2)	出場	1(3)	3(3)
原崎 駿	陸上 男子 砲丸投げ									3(3)	出場		
	陸上 男子 円盤投げ									3(3)	出場	2(4)	出場
石坂 隆宜	陸上 男子 やり投げ									2(4)	出場	2(5)	3(5)
野邊 走馬	卓球 男子ダブルス											2(2)	出場
	卓球 男子シングルス										3		
松元 拓磨	卓球 男子ダブルス											2(2)	出場
	卓球 男子シングルス										3		
中嶋 真太郎	柔道 男子個人戦 73kg以下									2(2)	出場	2(3)	出場

表Ⅱ(2)-3 年度別クラブ活動加入率

区分		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
クラブ加入数	体育部	436	467	437	450	427	410
	文化部	105	94	100	112	122	68
	合計	541	561	537	562	549	478
クラブ加入率	体育部	53.0	56.7	52.9	55.0	51.9	48.6
	文化部	12.8	11.4	12.1	13.7	14.8	8.1
	合計	65.8	68.2	65.0	68.7	66.7	56.7
クラブ非加入者		281	262	289	256	274	365
学生総数		822	823	826	818	823	843
クラブ・同好会加入者数		718	789	711	762	737	738

表Ⅱ(2)-4 年度別文化系クラブ成績

(数値：順位)

種目	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
吹奏楽 (宮崎県吹奏楽コンクール)	金	銀	銀	金	金	銀
吹奏楽 (九州吹奏楽コンクール)			銀	銀		
低燃費車製作研究部 (ホンダエコノパワー九州大会)		グループ4位	グループ7位		グループ3位	口蹄疫のため 開催中止
		279.23km/l	244.684km/l		262.832km/l	
ロボット製作局 (高専ロボットコンテスト九州大会)	デザイン賞	デザイン賞	特別賞	生命大進化賞	特別賞	
	ラビットピット	RainBow	TRI凸DE (トリデ)	麟麒恋変 (リンクオウヘン)	桜風舞姫 (さくらふぶき)	
ロボット製作局 (高専ロボットコンテスト全国大会)	特別賞	特別賞			特別賞	
	Parallel/パラレル	RainBow			桜風舞姫 (さくらふぶき)	
情報処理部 (プログラミングコンテスト)	敢闘賞 (自由部門)	審査員特別賞 (自由部門)	敢闘賞 (自由部門)		敢闘賞 (自由部門)	
	車のシンクロ!? モーター保一ス	EasyCPUMaker 簡単CPU作成ツール	楽農楽座： 農業情報化システム		Temote 手元でパソコンを簡単操作	
		審査員特別賞 (課題部門)				
		あかんべえー必勝！ 関数侍見参！				

多様化する学生のニーズに対応するための受け皿として、今後の同好会活動の活性化は、学校において新しい場としての可能性がある。

① 現在のクラブ活動の課題等

ア 外部コーチ招請に関する斡旋に関する事（学校HPの活用や地域体育協会との連携強化）

イ 各クラブへの部室の管理（夏季合宿以外）

a 部室の点検

b 部室や体育館等の施錠と鍵返却の徹底。部室の鍵を借りて、何日間も未返却のクラブあり、鍵をコピーしている可能性がある。

ウ 女子学生の宿泊施設

寮の第4棟あるいは楽信館を使用している。楽信館においては、宿直教員室からの距離が遠く、また、

2階に宿泊しているために安全面において問題があることが指摘されている。

安全確保のために楽信館の中にシャワー室、2階のベランダに緊急脱出用の梯子等を設置する必要がある。

学内には女子寮以外に他に女子学生の宿泊施設がなく、早急に対応する必要がある。

エ 地域総合型クラブとの連携について

平成21年度より本校クラブ活動の新しい取組として地域総合型クラブとの連携について検討してきた。

その中で都城圏域における総合型クラブの問題点として以下のことが明らかとなった。

まず、運営・維持ができるかは資金面の問題が一番大きく、政府の補助金も削減される方向であり、都城でも高城町のNPO法人「いきいきクラブ」以外は残っていないのが現状である。

次に、ヨーロッパ型クラブをつくるには時間を要するため、クラブを立ち上げるには地元少年団や自治会を巻き込む方法を検討する必要がある。最後にクラブの運営・維持には資金とエネルギーが必要であり、学校として資金をどのように確保するかが今後の大きな課題である。

以上のことから、本校での地域総合型クラブとの連携として取り組むべきこととして以下のようなことがあげられる。

- * 地元少年団と自治会のニーズ調査。
- * 本校の施設、人材（本校生による技術支援）で地域のニーズにどう応えることができるか具体的なプランを策定する。
- * 少年団、自治会にクラブの理解を得る。
- * 都城市のスポーツ振興課に相談し、プランを提案して協力を要請する。

(3) 学生会の活動状況

学生会は、学校行事（高専祭、体育競技会、クラスマッチ等）や九州沖縄地区高専学生会交流、地元沖水地区との交流などを中心に活発に活動している。ここ数年は、学生会役員選挙も会長や副会長等の立候補者が多く活性化している。

学生会研修は、平成18年度までは、学外の施設を利用し1泊2日で開催していた。しかし、経費の問題と学校を離れて会議をするほどの意義があるのかの理由により平成19年度からは学校での開催となっている。研修内容としては、学校行事、学生会交流等の年間計画や学生会の在り方等について積極的な議論が交わされている。表II2(3)-1に過去6年間の学生会研修日程等について示す。

平成20年度からは、地元沖水地区との交流を目的に、地区体育大会（10月）の支援、高専祭での地域住民の参加、沖水小中学校との交流（お化け屋敷大会、学習サポート）を通じて連携を深めている。

表II(3)-1 過去6年間の学生会研修

年度	研修日程	場所
17年度	5月20日(金)～21日(土)	霧島第一ホテル
18年度	5月25日(木)	サンピア都城
19年度	4月18日(水)	楽信館2階ミーティングルーム1・2、和室
20年度	4月16日(水)	高専図書館第一会議室
21年度	4月15日(水)	高専図書館第一会議室
22年度	4月14日(水)	高専図書館第一会議室

(4) 学生研修

① 1年生研修

1年生研修は、毎年4月の入学式から数日後に実施している。研修の主な目的は、親睦と学校ガイダンスである。研修会場は、宮崎県立青島青少年自然の家を使用している。施設面で老朽化の問題はあるが、交通の便が良いことで過去6年間は固定化している。1年生のレクリエーションは、天候に左右されるため、平成16年度より全天候型の「このはなドーム」を利用している。研修プログラムは学生指導部にて企画立案しており、研修終了後、毎年、担任、指導学生、学生指導部で反省会を開催し、プログラムの修正をしている。研修は、学生会役員と各学科の指導学生が支援しており、毎年の新入生アンケート結果では指導学生の評価は高い。過去6年間の1年生合宿研修の日程を表II(4)-1に、また、表II(4)-2に研修のプログラムを示す。

表II(4)-1 過去6年間の1年生合宿研修の日程

年度	研修日程	会場
17年度	4月15日(金)～4月16日(土)	宮崎県立青島青少年自然の家
18年度	4月15日(金)～4月16日(土)	宮崎県立青島青少年自然の家
19年度	4月14日(金)～4月15日(土)	宮崎県立青島青少年自然の家
20年度	4月11日(金)～4月12日(土)	宮崎県立青島青少年自然の家
21年度	4月10日(金)～4月11日(土)	宮崎県立青島青少年自然の家
22年度	4月10日(土)～4月11日(日)	宮崎県立青島青少年自然の家

表II2(4)-2 平成22年度新入生合宿研修プログラム

4月10日(土)		4月11日(日)		
8:35	集合@専攻科研究棟2階	6:00	起床、洗顔、寝具の整理整頓	※雨天時は 7:00-7:30 朝のつどい (体育室)
8:50	出発@高速道路使用	6:30	散歩	
9:50	到着 荷物を体育室前に置き研修室に移動	7:30	朝食<後片付け:M科> 順番 E>C>A>M	
10:00-11:00	研修開始式@大研修室 少年自然の家オリエンテーション 終了後荷物を持って入室	8:30	シーツ返却、清掃、着替え 荷物移動 清掃最終チェック <指導学生によるチェック>	
11:00-11:30	校長講話	9:10	退室終了 (荷物は体育室に置く)	
11:30-12:30	昼食<後片付け:A科> 順番 M>E>C>A	9:30-10:40	学生主事オリエンテーション@大研修室 学生会オリエンテーション@大研修室 <指導学生>	
12:30-13:25	学修ガイダンス@大研修室 (筆記具・学生便覧・しおりを持参)	10:50-11:20	終了後、体育室に移動 校歌コンテスト@体育室	
13:30-14:30	専門学科教員によるガイダンス M科@体育室,E科@中研修室 C科@1A研修室,A科@創作工芸室	11:30-12:30	昼食<後片付け:C科> 順番 A>M>E>C	
14:30-15:00	着替え／シーツの受け渡し<指導学生によるチェック> ジャージに着替えて体育室に移動	12:30-13:20	アンケート記入 感想文記入@大研修室	
15:00-16:30	レクリエーション@体育室	13:30-14:00	研修終了式	
17:30-18:45	夕食<後片付け:E科> 順番 C>A>M>E	14:00	クラスごとの写真撮影 退所	
18:00-19:20	入浴 男子@大浴場(50名)を利用 C・M、A・Eの順で時間をずらして入浴する 女子@中浴場(30名)利用 ※(E5)・(W1)班は浴場を片付ける。 <指導学生によるチェック>	15:00	学校着、解散	
19:40-21:30	ホームルーム(M科@大研修室、他の学科は前ガイダンスと同室)			
21:40-22:00	班長会@1A研修室 (担任、指導部、指導学生、班長)			
22:00	就寝準備			
22:30	消灯・就寝			

(2) 4年生学内研修

4年生研修は、進路指導（就職・進学）の一貫として毎年4月下旬に実施している。午前中は全体講演会を開催している。全体講演会の講師は各学科の意見を参考に学生指導部で選考している。過去5年間の

全体講演会の講師と講演演題を表Ⅱ2(4)-3に示す。

午後は各学科で分科会を開催している。分科会には各学科の卒業生（2名）を招聘し、講演や就職の心構えや企業の情報等について質疑応答を行っている。

表Ⅱ2(4)-3 過去5年間の全体講演会の講師と講演演題

年度	研修日	演題	講師
17年度	4月22日(金)	グローバルな視野をもって	花木 武俊 <(株)ソディックハイテックMIRカンパニー社長>
18年度	4月21日(金)	企業が高専卒社員の方へ期待すること	尾上 和幸 <京セラ隼人工場長>
19年度	4月20日(金)	大学へのいざない	本田 親久 <宮崎大学工学部長>
20年度	4月18日(金)	変革への挑戦－いま企業で起きていること	水永 正憲 <旭化成(株) 延岡支社長>
21年度	4月17日(金)	宇宙開発への工学の役割	藤田 洋一 <独立行政法人宇宙航空研究開発機構>
22年度	4月16日(金)	高専卒業後37年間を振り返って	紫垣 由城 <クレハ・常務執行役員>

③ 5年生テーブルマナー教室

毎年11月下旬から12月上旬にかけて5年生を対象としたテーブルマナー教室を開催している（表Ⅱ2(4)-4）。参加者は強制ではなく希望者のみであるが、毎年約80%程度の学生が参加している。研修終了後のアンケート結果は毎年好評である。課題としては会場の問題がある。学校から会場までバスで往復2時間要することである。市内のホテルでは約130名程度の学生を一括してテーブルマナーを開催できない現状がある。

表Ⅱ2(4)-4 テーブルマナー教室の実施日と会場

年度	研修日	場所	参加人数
17年度	12月9日(金)	霧島ロイヤルホテル	114名
18年度	12月4日(月)	霧島ロイヤルホテル	128名
19年度	12月3日(月)	霧島ロイヤルホテル	129名
20年度	12月1日(月)	霧島ロイヤルホテル	124名
21年度	11月25日(水)	霧島ロイヤルホテル	142名

(4) 身だしなみ教室

毎年1月から2月にかけて4年生女子を対象に学校で開催している。就職や進学の際のあいさつの仕方やスーツの着こなし、さらにメイクアップなどについて外部講師から指導を受けている。平成22年度からは、厳しい就職状況に対応するために4年生全員を対象としたマナー講習会を学校後援会の支援を受けて前後期各1回開催している。(表II2(4)-5)

表II2(4)-5 身だしなみ教室の開催時期等について

年度	研修日	場所	参加人数
17年度	2月13日(月)	図書館(第1会議室)	23名
18年度	2月21日(月)	図書館(第1会議室)	39名
19年度	2月4日(月)	専攻科棟2階多目的ホール	32名
20年度	2月4日(月)	専攻科棟2階多目的ホール	32名
21年度	2月24日(水)	専攻科棟2階多目的ホール	30名

(5) 学生相談支援室

本校の学生相談室は、平成12年4月に設置され、学生が直面する諸問題に関する相談に応じる役割を果たすことを主たる目的としてきたが、学生の相談に応じるのみならず、学生生活の充実と人間的成长に資することにも対応すべく、平成22年に学生相談支援室（以下、「支援室」という。）という名称に変更された。

支援室は室長のほか、内部相談員1名、外部相談員1名、カウンセラー2名、インテーカー1名が配置されており、内部相談員は本校教員、外部相談員は本校教員退職者、カウンセラーは外部の臨床心理士、インテーカーは本校保健室の看護師が担当している。

支援室は、学生本人及び保護者から相談や支援依頼を受けるほか、学級担任教員、教務指導部、学生指導部、寮指導部、各学科との連携を図りつつ業務に当たっている。学生からの相談は、直接相談員に寄せられることもあるが、そのようなケースはむしろ少なく、担任教員や保健室の看護師から支援室を紹介される場合が多い。常勤の室長、内部相談員、看護師への相談で一応の解決をみる場合もあるが、そうでない場合は外部相談員、カウンセラーへの支援を要請する。本校看護師がインテーカーとして相談者を外部相談員、カウンセラーに紹介している。外部相談員、カウンセラーとも非常勤であるため、事前の予約に基づいてカウンセリングを手配することになる。学生が授業欠課の心配をすることなく気軽に相談に来ることができるよう、カウンセリングを受ける時間は授業を出席扱いにする措置が取られている。

カウンセラーと外部相談員は、それぞれ1週間に1回程度来校している。カウンセリングの実施予定日を事前に各教室の掲示板に掲示するとともに、ホームルーム等を通じて学級担任から学生に周知するようにしているため、カウンセリングに対する学生の認知度は高い。カウンセリングの受付は、保健室が窓口となっているが、直接申し込むことに抵抗を感じる学生にも配慮するため、Eメールによる受付も行っている。

カウンセラーは、主として、①対人関係に関すること、②性格に関すること、③個人的な悩みに関すること、④進路や職業選択に関すること、⑤その他について、外部相談員は主として、①進路に関すること、②勉学に関すること、③単位取得に関すること、④その他、について相談を受けている。また、低学年生の特別活動の時間にはカウンセリングについての講話を担当している。

専攻科設置以来、中学校を卒業したばかりの15歳の1年生から、大学4年生と同じ22歳の専攻科生までの多様な学生をかかえるようになり、支援室に寄せられる相談内容も多岐に渡っている。また、支援室設置当時には予想もされなかつたような事例や、これまで高専という現場では見られなかつた問題も生じている。ある障害を抱えた学生の支援のため、専門家を招いて研修会を開いたこともあった。また、学習障害、発達

障害をもつ学生への支援の必要性も高まっており、室員は各種の研修会、研究協議会へ積極的に参加し、研修内容、協議内容について本校教員に報告している。

支援を必要としている学生の足をいかに支援室に向かわせるか、ということは学生相談、学生支援担当者にとって大きな課題であるが、支援室の「敷居の高さ」を感じる学生にとって保健室の存在は非常に大きい。保健室には、学生が気兼ねなく自由に入り出しができる雰囲気があり、学生にとっては息抜きのできる場であると同時に、先輩学生が後輩を優しく励ましたり、時には厳しく諭したりという、学年、学科を超えた貴重なコミュニケーションの場ともなっている。また、看護師は学生との会話を通して、あるいは学生同士の会話を耳を傾けることで、必要に応じてカウンセリング等の支援へつなぐ役割も果たしている。

現在、支援室の抱える課題として、支援を必要としながらも自分から助けを求める事のできない学生の足を支援室及び保健室に向けさせることができられる。そのためには、苦しい時に相談すること、支援を求めるることは、怪我をしたら病院で治療することと同じように、決して恥ずかしいことではなく、むしろ自分が成長していることの証であるということを機会があるごとに学生に訴えたい。もう一つの課題は、支援室としてどのように学生のキャリア支援に関わるかということである。高専の長所として就職に強いことがあげられるが、最近では4,5年生になっても進路について自発的、主体的に考えることのできない学生、就職試験の面接でコミュニケーション能力の欠如に苦しむ学生、就職しても3年以内に辞めてしまう卒業生が増加している。本校にもキャリア支援室が組織されることになったので、学生相談支援室として、どのように学生の支援に関わっていくべきかを見極めていくことが求められる。

表II(5)-1 カウンセリングの受診内容

年度		対人関係	性 格	学 業	進 路	寮	恋 愛	家庭問題	健康相談	不登校	その他	計
17	男	6	11	7	10	4	5	2	3	0	47	214
	女	4	14	18	12	1	5	9	7	0	49	
18	男	5	0	3	7	0	4	7	1	0	22	134
	女	10	4	4	13	2	6	16	2	1	27	
19	男	15	14	16	15	3	2	22	10	1	44	318
	女	20	16	10	33	7	6	27	7	2	48	
20	男	8	7	7	7	0	0	2	7	3	41	218
	女	24	15	22	12	5	6	9	7	2	34	
21	男	8	7	10	13	0	0	5	1	0	48	255
	女	26	16	14	17	3	10	22	6	3	46	

(6) 特別活動学生指導部企画

低学年生の特別活動において各学年前期と後期に各1回ずつ外部講師を招聘して講演会を開催している。講演会の内容としては、思春期の学生に配慮し健康面、生活面に重点をおいて企画立案している。今後は低学年生からのキャリア教育を踏まえ特別活動の内容を精選する必要がある。過去5年間の講演内容等を表II(6)-1に示す。また、エイズ教室については、同表に示すように都城保健所に依頼し毎年開催している。

表II2(6)-1 特別活動学生指導部企画項目及び講師

年度	企画項目	対象学年	講師
平成17年度	思春期とカウンセリング	1	勝吉恵美子（カウンセラー）
	喫煙への興味の中味	1	入田薰（都城保健所）
	エイズ講習	2	瀬尾のり江（都城保健所）
	薬物のおそろしさ	2	馬渡正信（都城警察署）
	契約とクレジット	3	磯脇勝子（都城地方消費センター）
平成18年度	心の健康	1	勝吉恵美子（カウンセラー）
	サイバー犯罪	1	藤山敏一（都城警察署）
	エイズ講習	2	日高真紀（都城保健所）
	薬物講習会	2	児玉武光（都城警察署）
	契約とクレジット	3	磯脇勝子（都城地方消費センター）
平成19年度	心の健康管理	1	勝吉恵美子（カウンセラー）
	NTT携帯電話の件	1	阿部美和子、島津美佳（ドコモアイ九州（株））
	エイズ講習	2	塩田栄子、松田有加（都城保健所）
	NTT携帯電話の件	3	小屋岡久美（ドコモアイ九州（株））
平成20年度	NTT携帯電話の件	1	阿部美和子（ドコモアイ九州（株））
	心の健康管理	1	勝吉恵美子（カウンセラー）
	エイズ講習	2	佐藤優子（都城保健所）
	たばこ及び薬物講習会	2	阿波野恵、伊藤政子（都城保健所）
	契約とクレジット	3	池田志織（都城地方消費センター）
平成21年度	NTT携帯電話の件	1	山中佐智子（ドコモアイ九州（株））
	心の健康管理	1	勝吉恵美子（カウンセラー）
	エイズ講習	2	塩田栄子、松田有加（都城保健所）
	たばこ及び薬物講習会	2	阿波野恵、伊藤政子（都城保健所）
	契約とクレジット	2	池田志織（都城地方消費センター）

(7) 保健管理

保健室には、看護師1人が常勤で配属され、学生相談や授業中やクラブ活動のけが等に対応している。ここ数年は、世相を反映するように対人関係や家庭の問題、そして進路等に関する相談が増加の傾向にある（表II2(5)-1）。なかでも不登校の学生は、入学直後や5月の連休を過ぎてから増える傾向にある。その大きな原因としては家庭教育に問題がある場合が多く見られる。2人のカウンセラーと1名の教育相談員により木目細かな対応をしているが、学生の保護者のカウンセリングも同時に行っているため復学までにはかなりの支援と時間を要する。多様化する学生相談にはカウンセラーまかせではなく、研修会を開催し教員もカウンセリングマインドを研鑽する時期に来ている。

表II2(7)-1に負傷内容別傷害件数、また表II2(7)-2に負傷時間別発生件数を示す。授業中やクラブ活動中の負傷件数は平成17年度から減少傾向にある。この減少の理由としてはクラブ研修等での安全対策、応急処置や保健体育の授業での講義の効果が考えられる。今後も継続して安全対策の講習会等を開催し意識の啓

蒙を図る必要がある。

平成 21 年度には新型インフルエンザにより学級閉鎖となったクラスが延べ 14 クラスあった。平成 19 年度の校内のインフルエンザ罹患者が 50 名、平成 21 年度は 651 名であり学生総数の半数以上が罹患したことになり、如何に新型インフルエンザが猛威を振るったかが明らかである。年度別インフルエンザ発生件数を表 II 2(7)-3 に示す。学校としては手洗い、消毒、教室の換気等の徹底を図ったが寮生のウイルスの伝搬は早く未然に防ぐことはできなかった。平成 16 年度よりインフルエンザ予防接種を奨励するために学校後援会より 1 回の予防接種に対して一人当たり千円の補助を行っている。予防接種の割合は全学生の 20% 程度である。今後は接種率を向上させるための啓蒙が重要である。予防措置として平成 21 年度より学級役員に保健委員（各クラス 2 名）を新設し、保健室との連携の強化や教室の換気や手洗いの励行等をするような指導体制をとっている。

表 II 2(7)-1 負傷内容別傷害件数

内 容	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
骨 折	24	10	11	9	8
捻 挫	11	21	11	10	13
脱臼	4	3	1	0	1
挫切創	5	6	3	10	6
靭帯創	4	4	4	4	1
打撲	5	5	5	4	5
眼	2	1	1	2	1
歯	2	1	0	0	0
熱 傷	0	1	0	2	1
その 他	6	1	2	3	0
計	63	53	38	44	36

表 II 2(7)-2 負傷時間別発生件数

区 分	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
クラブ活動	36	27	23	25	19
体 育	14	13	5	10	8
その他の授業	4	0	1	2	1
行 事	6	6	4	1	2
実験実習	0	2	1	2	2
登下校	3	2	1	1	0
休憩時間	0	2	2	0	3
寮	0	1	1	3	1
計	63	53	38	44	36

表II2(7)-3 年度別インフルエンザ発生件数

年度	通学	寮	延人数	予防接種した数
14	135	152	287	
15	225	263	488	
16	15	16	31	139
17	22	25	47	135
18	21	38	59	76
19	22	28	50	164
20	161	263	424	199
21	346(333)	305(253)	651(586)	150

注) () 内はA型インフルエンザの内数

(8) 福利厚生

① 授業料減免

宮崎県の県民所得は全国でも低く、平成 20 年のリーマンショック、さらに平成 22 年 4 月に発生した口蹄疫等の影響で経済的に困難な状況が続いている。法人化後も授業料授業料減免の制度は継続されているが、その申請者数は増加している。過去 5 年間の申請状況等について、表 II2(8)-1 から表 II2(8)-3 に示す。授業料減免は、厚生補導委員会にて経済的困窮度と学業成績等で減免対象者を決定している。平成 22 年度より就学支援金制度（高校無償化）が始まり、低学年生は高校生と同様に助成が始まった。低学年生（1 ～ 3 年生）の年間の授業料は 234,600 円であり国から 118,800 円の助成がある。保護者負担分は 115,800 円で所得に応じて保護者負担金は減額される。

表 II2(8)-1 授業料減免の状況

(平成 22 年 9 月現在)

区分		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
申請者数	前期	158	155	162	151	168	70
	後期	147	130	150	133	156	
	計	305	285	312	284	324	70
学内免除者数	前期	45	45	46	45	45	20
	後期	45	45	45	45	45	
	計	90	90	91	90	90	20
超過免除者数	前期	45	52	60	42	37	29
	後期	70	56	69	59	54	
	計	115	108	129	101	91	29
不採択者数	前期	68	58	56	64	86	21
	後期	32	29	36	29	57	
	計	100	87	92	93	143	21

注) 平成 22 年度の授業料減免の人数は、就学支援金制度の開始により、高学年(4・5 年生)及び専攻科生である。

表II(8)-2 授業料減免の不採択内訳

(平成22年9月現在)

区分	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
家計基準	7	8	9	9	14	3
学力基準	48	48	51	42	47	6
家計・学力基準	1	1	1	2	1	1
その他	44	30	31	40	81	11
合 計	100	87	92	93	143	21

表II(8)-3 授業料減免の採択者数

(平成22年9月現在)

年 度	区 分	全額免除	半額免除	計
平成17年度	前 期	45	45	90
	後 期	45	70	115
平成18年度	前 期	44	53	97
	後 期	44	57	101
平成19年度	前 期	45	61	106
	後 期	45	69	114
平成20年度	前 期	45	42	87
	後 期	45	59	104
平成21年度	前 期	45	37	82
	後 期	49	50	99
平成22年度	前 期	28	21	49
	後 期			

② 奨学金制度

平成22年度は低学年生で平常の土、日曜に学費を捻出するためにアルバイトを許可した学生が3名いた。経済状況が悪い中で、学業に専念するためには各種奨学金を受給することが望ましいが、奨学金を受給していくても困窮度の高い家庭が増加している。奨学金は、日本学生支援機構の他、地方公共団体の各種の奨学金がある（表II(8)-4）。本校の奨学金受給状況等について表II(8)-5と表II(8)-6に示す。

経済的に困窮度の高い学生には、学校としては各種奨学金を受給することを奨励しているが、各種奨学金で対応できない状況になった場合は、学校独自の奨学基金制度を検討する必要がある。

表II2(8)-4 奨学金の種類と貸与月額

日本学生支援機構				地方育英会				
区分	学年	第一種（無利子） 貸与月額	第二種（有利子） 貸与月額	奨学金名	区分	貸与月額		
自宅通学	1年～3年	21,000	3万、5万、8万、 10万、12万から 希望金額を選択	宮崎県 育英資金	一般・自宅通学	18,000		
		10,000			一般・自宅外通学	23,000		
	4・5年	45,000			へきち・自宅通学	27,000		
	専攻科	30,000			へきち・自宅外通学	38,000		
自宅外通学	1年～3年	22,500	希望金額を選択	鹿児島県 育英財団 奨学金	一般・自宅通学	18,000		
		10,000			一般・自宅外通学	23,000		
	4・5年	51,000			再編成特別(自宅外通学のみ)	23,000		
	専攻科	30,000			交通遺児等	24,000		
その他自治体								
都城市(10,000円)、三股町(10,000円)、えびの市(12,000円)、日向市(10,000円)、新富町(10,000円)、 高千穂町(20,000円)、曾於市(25,000円)、南さつま市(30,000円)、志布志市(15,000円)、湧水町(15,000円)、 入来町(10,000円)、肝付町(20,000円)、あしなが育英会(25,000円)、古岡奨学会(13,000円)								

表II2(8)-5 日本学生支援機構奨学金申請・採用状況

区分		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
申請者数	在学定期採用	30	39	45	44	39	30
	追加採用	0	6	2	0	0	0
	合計	30	45	47	44	39	30
採用者数	在学定期採用	28	29	42	44	39	30
	追加採用	0	6	2	0	0	0
	合計	28	35	44	44	39	30

表Ⅱ2(8)-6 奨学金貸与状況

年 度	区 分	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科1年	専攻科2年	合計
平成 17 年度	日本学生支援機構	12	19	18	34	34	1	7	125
	そ の 他	16	6	4	3	7	1	0	37
	合 計	28	25	22	37	41	2	7	162
平成 18 年度	日本学生支援機構	21	12	18	21	34	5	1	112
	そ の 他	12	16	6	3	3	0	0	40
	合 計	33	28	24	24	37	5	1	152
平成 19 年度	日本学生支援機構	23	21	14	23	19	9	5	114
	そ の 他	22	16	17	9	4	0	0	68
	合 計	45	37	31	32	23	9	5	182
平成 20 年度	日本学生支援機構	26	23	21	19	24	9	9	131
	そ の 他	9	22	18	16	8	0	0	73
	合 計	35	45	39	35	32	9	9	204
平成 21 年度	日本学生支援機構	28	25	24	21	22	7	8	135
	そ の 他	8	10	22	19	14	0	0	73
	合 計	36	35	46	40	36	7	8	208
平成 22 年度	日本学生支援機構	19	28	25	23	20	9	8	132
	そ の 他	20	9	10	24	17	0	0	80
	合 計	39	37	35	47	37	9	8	212

3 寄生活への支援

(1) 寄の運営状況

本校の寄宿舎（高千穂寮）は、昭和 39 年 4 月 1 日開設された。寮指導部は平成 6 年度より、現状の主事補が 5 名の 6 人体制を取っている。寮務係は平成 10 年寮務主任が廃止され 2 名体制となっている。平成 11 年 4 月、ぼや騒動がきっかけとなり、夜間の警備員が配置された。休日の日直も平成 16 年より事務官から警備会社に委託されている。宿直は 60 歳までの教員が交代で配置され、平成 4 年度よりは夜間 11 時まで半当直として、指導部が交代で寮生の指導に当たっている。なお、半当直は超過勤務であり、勤務時間帯は弾力的に運用している。平成 4 年より女子寮生指導のため寮生相談員（寮母）を配置したが、女子教員を採用したため、廃止している（平成 15 年 3 月）。食堂の運営も昭和 60 年度より業者委託している。

寮生数： 1 年 65 名、2 年 51 名、3 年 60 名、4 年 59 名、5 年 57 名（平成 22 年 4 月）

年 度	1年	2年	3年	4年	5年	計
21 年度	51	60	59	57	43	272
20 年度	58	64	61	41	57	282
19 年度	71	63	43	63	62	303
18 年度	66	53	72	65	59	315
17 年度	59	83	72	60	62	336

女子寮生数： 1年11名、2年7名、3年9名、4年16名、5年7名（平成22年4月）

年 度	1年	2年	3年	4年	5年	計
21年度	7	9	16	7	8	47
20年度	9	15	8	8	10	50
19年度	17	9	7	11	12	56
18年度	11	9	13	13	8	54
17年度	9	15	14	8	7	53

留学生数： 3年2名、4年3名、5年1名 計6名（平成22年4月）

年 度	1年	2年	3年	4年	5年	計
21年度	/	/	3	1	2	6
20年度	/	/	1	2	0	3
19年度	/	/	2	0	2	4
18年度	/	/	0	2	2	4
17年度	/	/	2	2	1	5

退寮者数： 1年2名、2年1名、3年1名、4年1名（22年度 前期まで）

年 度	1年	2年	3年	4年	5年	計
21年度	4	1	1	0	3	9
20年度	2	4	5	1	3	15
19年度	10	3	3	5	4	25
18年度	4	10	14	3	2	33
17年度	5	12	10	2	4	33

平成22年度の寮費一覧

(年額：円)

給食費	管理費	暖房費	寮生会費	保護者会費	合計
269,020	50,000	12,000	2,400	6,000	339,420

注：平成18年度 管理費を月額3,000円（年額30,000円）から月額5,000円（年額50,000円）に値上げした。

平成20年度 暖房費を月額2,000円（年額6,000円）から月額4000円（年額12,000円）に値上げしたが、平成22年度は実費との差額分を返却することにしている。

(2) 生活指導

寮生活においても年齢幅が15歳から20歳にわたるため、現在では1～3年生（低学年）、と4,5年生（高学年）は区別して指導している。低学年においては指導に重きを置き、高学年は低学年生の模範となり得るよう、自主性を重んじた指導を行っている。

① 学習巡回

平成14年度より、低学年の宿直巡回が学習巡回簿の作成により、日常の継続的な指導が行うようになった。法人化以後も継続されており一定の効果があると思われる（表II 3(2)-1を参照）。（学習時間：20時～22時）

表Ⅱ3(2)-1 中間（期末）試験の成績表（平成 17 年度～平成 22 年度）

〔平成 22 年度前期末試験平均点〕

1年	機械	電気	物質	建築
寮生	77.7	78.1	80.6	74.7
(通学生)	75.6	76.8	80.1	72.3
2年	機械	電気	物質	建築
寮生	76.6	76.6	79	70.8
(通学生)	72.1	73.3	74.6	66.4
3年	機械	電気	物質	建築
寮生	75.3	70.9	69	77
(通学生)	74.7	69.3	72.1	70.4
4年	機械	電気	物質	建築
寮生	67.6	72.4	74.3	74.8
(通学生)	74.6	73.4	70.4	72.9
5年	機械	電気	物質	建築
寮生	81.3	78.2	88.8	73.6
(通学生)	77.8	78.5	86.8	72.9

〔平成 21 年度前期中間試験平均点〕

1年	機械	電気	物質	建築
寮生	73.3	75.6	77.7	65.3
(通学生)	66.4	69.1	74.2	63.3
2年	機械	電気	物質	建築
寮生	79.1	80.0	72.4	78.3
(通学生)	75.5	73.3	74.7	74.0
3年	機械	電気	物質	建築
寮生	60.9	75.1	73.9	71.1
(通学生)	69.2	71.1	70.6	67.5
4年	機械	電気	物質	建築
寮生	82.2	72.1	78.1	70.6
(通学生)	76.3	70.4	67.9	72.8
5年	機械	電気	物質	建築
寮生	75.8	75.3	70.2	69.7
(通学生)	69.9	80.5	72.6	68.1

〔平成 20 年度前期中間試験平均点〕

1年	機械	電気	物質	建築
寮生	78.3	78.8	63	71.3
(通学生)	76.1	72.1	71.7	71.1
2年	機械	電気	物質	建築
寮生	66.6	74.6	69.7	70.4
(通学生)	72.3	74.7	70.4	71
3年	機械	電気	物質	建築
寮生	82.3	74.7	79.8	72.6
(通学生)	76.5	70.6	68.9	73.9
4年	機械	電気	物質	建築
寮生	74.5	72.8	72.3	67.5
(通学生)	66	75.6	69.5	62.3
5年	機械	電気	物質	建築
寮生	70.3	68.9	70.7	70.3
(通学生)	78.1	69.8	79.7	63

〔平成 19 年度前期中間試験平均点〕

1年	機械	電気	物質	建築
寮生	62.9	79.8	68.7	71.5
(通学生)	67.9	74.9	69.5	70
2年	機械	電気	物質	建築
寮生	78.2	65.2	77.2	71.7
(通学生)	70.3	70.1	70.7	69.5
3年	機械	電気	物質	建築
寮生	65.9	72.8	60.9	71.6
(通学生)	62.4	75.2	66.9	60.6
4年	機械	電気	物質	建築
寮生	75.6	70.4	69.7	68.4
(通学生)	77.5	75.2	70.5	61.4

〔平成 18 年度前期中間試験平均点〕

1年	機械	電気	物質	建築
寮生	74.2	71.5	80.5	69.7
(通学生)	71.2	71.1	73.5	67.2
2年	機械	電気	物質	建築
寮生	74	64.6	64.3	69.5
(通学生)	67.7	69.2	69	66.4
3年	機械	電気	物質	建築
寮生	70.8	67.6	72.6	69.7
(通学生)	69.4	69.6	66.5	60.2

〔平成 17 年度前期中間試験平均点〕

1年	機械	電気	物質	建築
寮生	69.2	69.9	75.3	63
(通学生)	67.6	77.1	74.6	63.6
2年	機械	電気	物質	建築
寮生	70.3	74.4	75.2	72
(通学生)	64.8	73.7	73	66.4